かまくらかいどうしゅうへん
鎌倉街道周辺遺跡

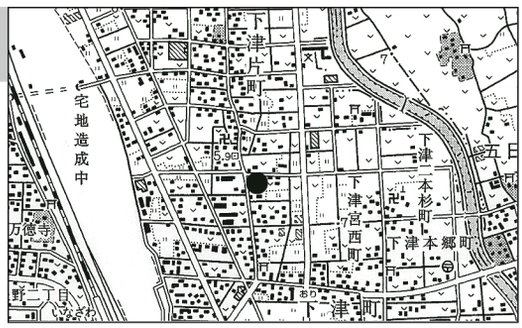
所　在　地　稲沢市下津新町
（北緯35度15分27秒 東経136度49分33秒）

調査理由　道路改良事業（都市再開発関連）主要地方道路名古屋豊山稲沢線

調査期間　平成17年4月～11月

調査面積　2,278㎡

担　当　者　宮腰健司・鈴木正貴・加藤博紀



調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　調査は愛知県建設部道路建設課による県道名古屋豊山稲沢線の改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成17年4月から11月にかけて実施された。調査区を旧岐阜街道などが存在するためA区～C区の3つに分けて行った。

立地と環境　鎌倉街道周辺遺跡は稲沢市赤池東山町から下津下町までの青木川右岸に位置する広大な遺跡である。尾張平野を流れる三宅川や青木川などによって形成された自然堤防および後背湿地上に立地し、現地表面の標高は約6mを測る。遺跡中央部の現在下津小学校付近には15世紀代に尾張守護所があったと伝えられる下津城跡があり、また西方2～3㎞には古代の尾張国府跡があったと推定されている。今回の調査区は、遺跡の西端部中央に位置しており、稲沢市下津新町に所在する。

調査の概要　今回の調査では、古墳時代から江戸時代までの遺構や遺物が確認された。遺構は古墳時代、古墳時代末～平安時代（古代）、鎌倉・室町時代、江戸時代後半に大別できる。調査は繰り返し積み重なった河川堆積物を検討することによって4面の遺構検出面を把握して進めたが、検出が難しい遺構もあり必ずしも遺構の時期と遺構検出面は対応していない。C区の西側に現宮田用水が流れているが、明治17年作成地籍図によれば青木川から分流する旧河川が用水の位置に流れていたと推測され、調査地点はその旧河川によって形成された自然堤防上に立地すると考えられる。B区南東端部から東側は水田が広がる後背湿地状となっており、遺構の密度は急激に希薄となっている。

古墳時代前期　A区では現地表下約2.2mの黒灰色粘土層上面で浅い落ち込み状の土坑が数基確認された。このうち土坑SX07ではS字状口縁台付甕が埋設されていた。

古墳時代末～平安時代　この時期の遺構には竪穴建物跡約50棟、掘立柱建物跡3棟、溝、土坑などがあり、本遺跡の中心をなす段階と考えられる。竪穴建物跡は全ての調査区で確認され、平面形は隅丸方形または隅丸長方形を呈する。カマドの痕跡を持つものが数基存在するが、残存状況は不良で破壊されていた。A区中央部ではわずかに地形が落ち込んでおり、竪穴建物跡は少ない。その代わりに第4面の遺構として2間×3間の総柱の掘立柱建物跡が2棟確認された。時期を確定することは難しいが、掘立柱建物跡の方位に平行する溝SD43から出土した遺物などから見て、おそらく奈良時代に属するものと思われる。また、B区中央部では9世紀以降の2間×3間の掘立柱建物跡が1棟発見されている。

出土遺物は須恵器杯類や土師器甕が多く、これまでのところ硯など官衙関連遺跡で見られるような特異な遺物は存在しない。これらの状況から、律令体制下における新規開発に伴う竪穴建物跡を主体とした集落と位置づけられ、その一角に掘立柱建物跡の倉庫が設けられたものと推定される。

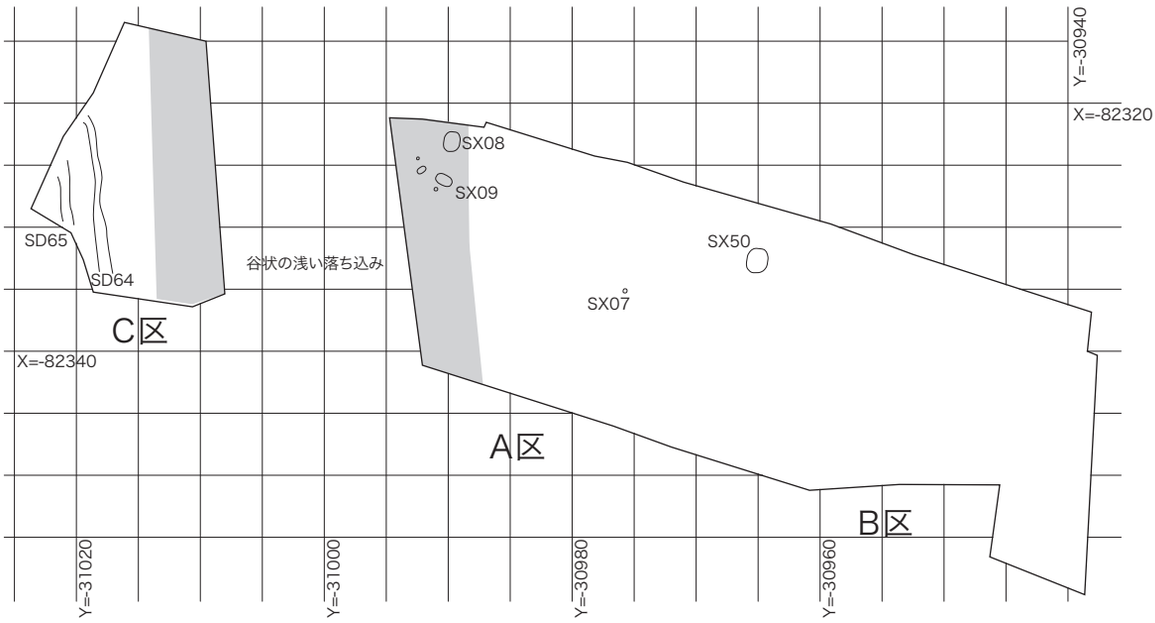


図１　古墳時代前期の主要遺構配置図（1:600）

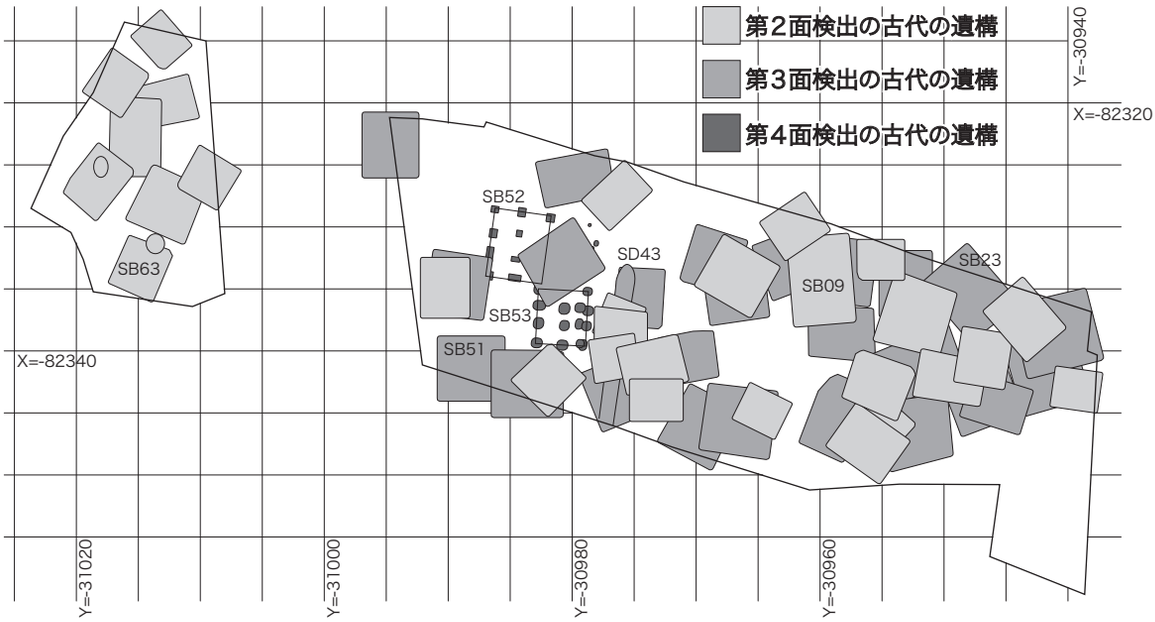


図２　古墳時代末～平安時代の主要遺構配置図（1:600）

鎌　倉・室町時代　平安時代末期から鎌倉時代では、幅が1～4mの溝で囲まれた屋敷地が確認された。区画溝SD11などからは藤澤編年第4～5型式の尾張型山茶椀等が出土した。B区では井戸SK14が発見されたが、井戸側構造物は残存していなかった。

室町時代では、溝2条とそれに平行する形で掘立柱建物跡が2棟以上確認された。溝は屋敷地を区画するものと思われ、鎌倉時代の溝とは方位が異なる。出土遺物は少ないが東濃型山茶椀などが存在しており15世紀前半に位置づけられる。鎌倉時代とは地割の方位が大きく異なることから、集落の変遷において大きな画期が存在した可能性を考えることもできる。

江戸時代以降　江戸時代の遺構としては区画溝、井戸、畑、水田跡などが確認された。A区とC区の間には江戸時代に開設された岐阜街道が通っており、井戸の配置からみてこの街道に沿って屋敷が並んでいたと考えられる。この屋敷裏に相当するB区では溝で区画された畑や水田跡が確認された。出土遺物からみて18世紀後半以降の屋敷と思われ、下津片町と下津下町の間に所在する下津新町は18世紀後半頃から形成されたと考えられる。

まとめ　今回の調査の結果、調査区の北西に流れる古河川によって形成された自然堤防の微高地に古墳時代末期からほぼ連綿と集落が展開していたことが判明した。鎌倉街道は調査区の東約500mの位置に現青木川に並行して通っていたと推定され、推定鎌倉街道が乗る自然堤防と本調査区が所在する自然堤防は異なる可能性が高い。本調査区は、古代の集落のあり方などからみて推定鎌倉街道近辺の遺跡とは異なる遺跡と認識した方が理解しやすいといえる。ただし、尾張守護所が下津にあった室町時代では地割の方位が変更されており、かつ調査区が下津城跡推定地から南西に500mの地点であることから、中世「下津」の一角を担う集落であった可能性も考えられる。（鈴木正貴）

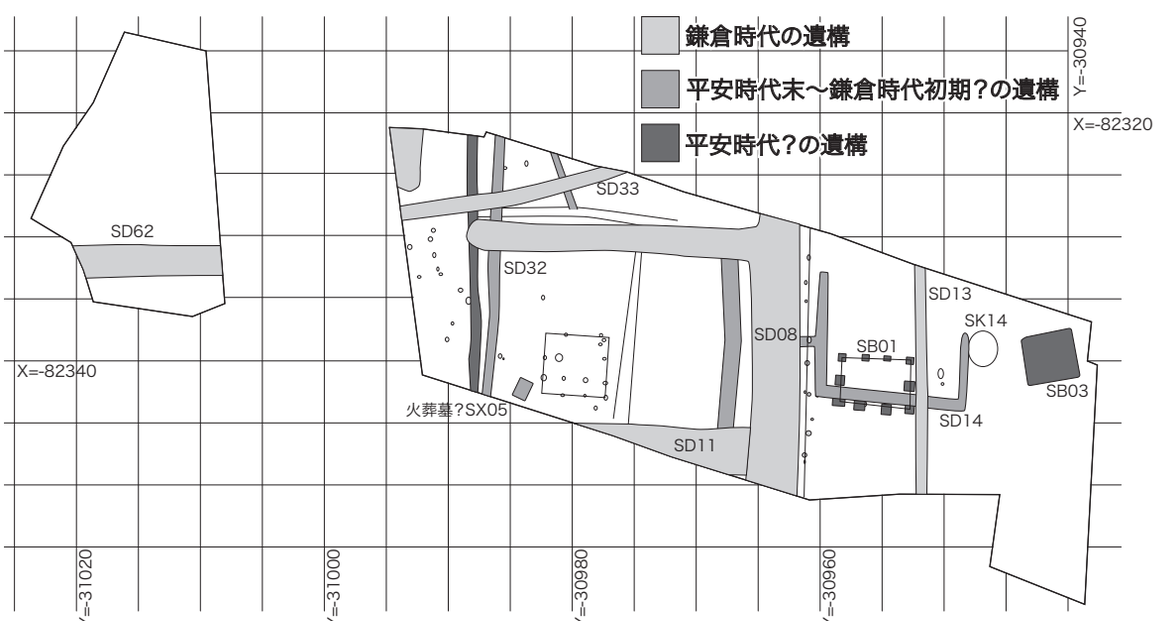


図3　平安時代～鎌倉時代の主要遺構配置図（1:600）

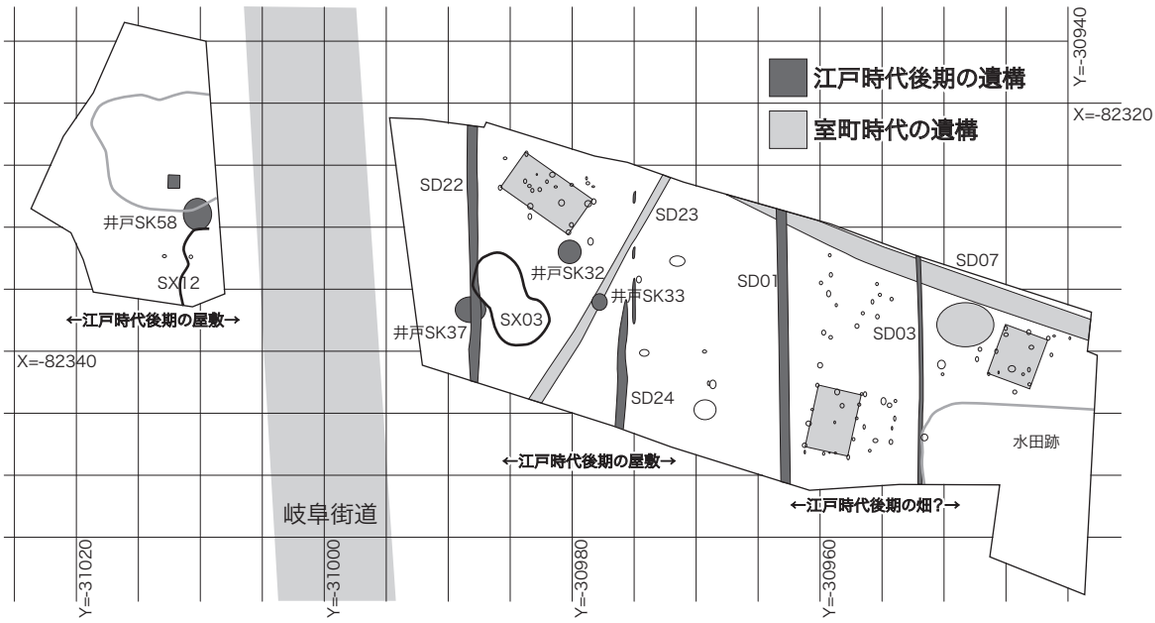
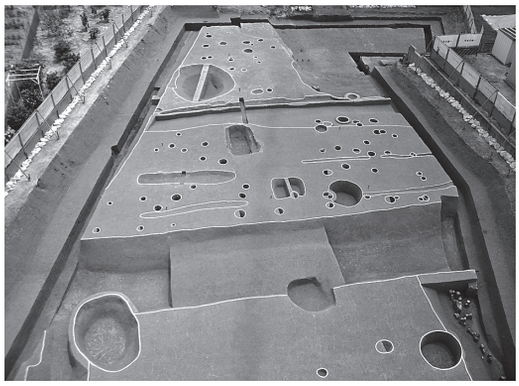
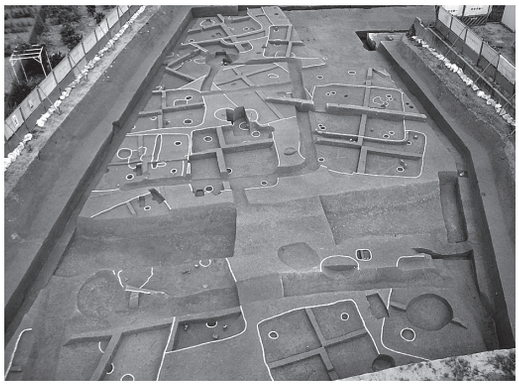


図４　室町時代～江戸時代の主要遺構配置図（1:600）

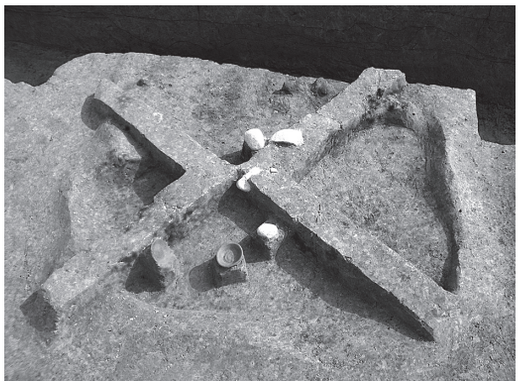


B区１面全体　鎌倉～室町時代の遺構　西から

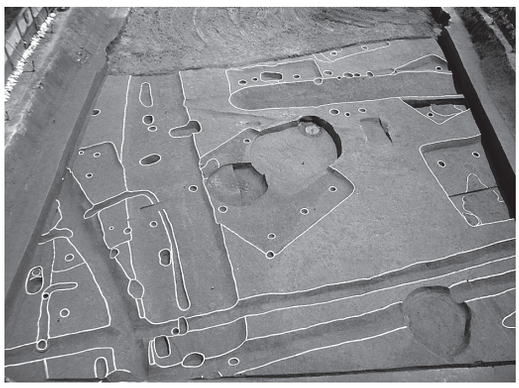


B区３面全体　奈良時代の遺構　西から

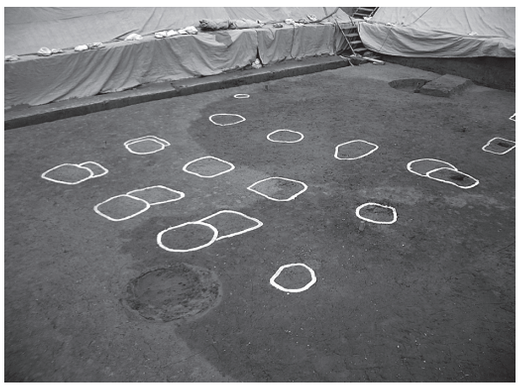
Aa区１面全体　鎌倉～江戸時代の遺構　西から



Aa区火葬墓？SX05　北西から

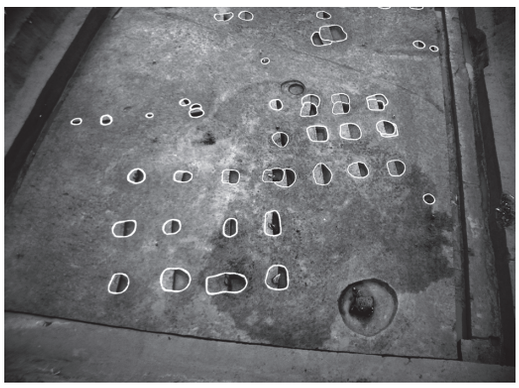


Aa区3面全体　奈良～鎌倉時代の遺構　西から



Aa区掘立柱建物跡SB53検出状況　北東から

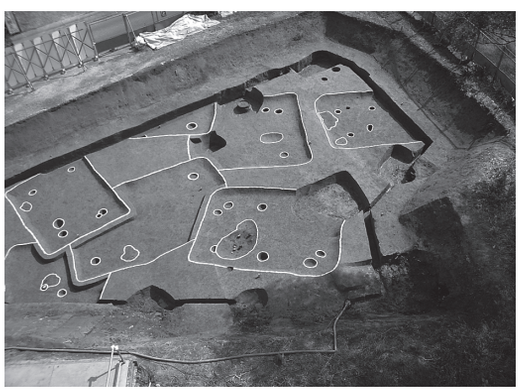
Aa区土坑SX07遺物出土状況　南から



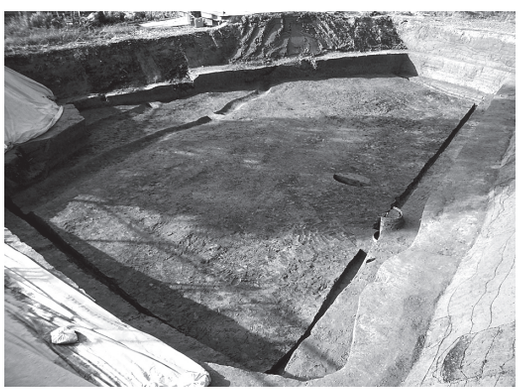
Aa区4面西半部　奈良時代の遺構　西から

Ab区1面北半部　鎌倉～室町時代の遺構　北から

C区1面全体　室町～江戸時代の遺構　南から



C区2面全体　奈良時代の遺構　西から



C区3面全体　古墳時代？の遺構　南東から